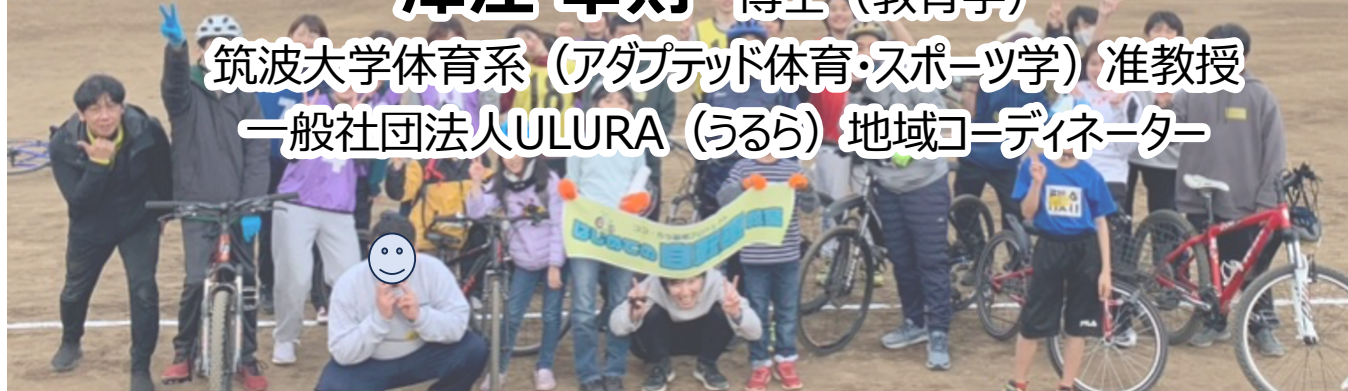


共生社会実現にむけた 地域スポーツのあり方

澤江 幸則 博士（教育学）

筑波大学体育系（アダプテッド体育・スポーツ学）准教授

一般社団法人ULURA（うるら）地域コーディネーター



わたし

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

鳥取県生まれ広島育ち

筑波大学体育専門学群卒業
筑波大学大学院修士課程体育学
専攻修了

横浜市リハビリテーション事業
団北部地域療育センター 児童
指導員

東北大学大学院博士後期課程教
育学専攻（発達心理学）修了

文京学院大学保育学科講師

現在に至る

体育学修士
博士（教育学）

臨床発達心理士・社会教育士

3つの特徴（ADHD 3 徴候）を有する

①不注意 ②多動性 ③衝動性

発達年齢に比べて、落ち着きがない、待てない（多動性・衝動性）、注意が持続しにくい、作業にミスが多いといった特性があります。多動性・衝動性と不注意の場合も、いずれか一方が認められる場合もあります。

厚生労働省のHPより



これまでの取組

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

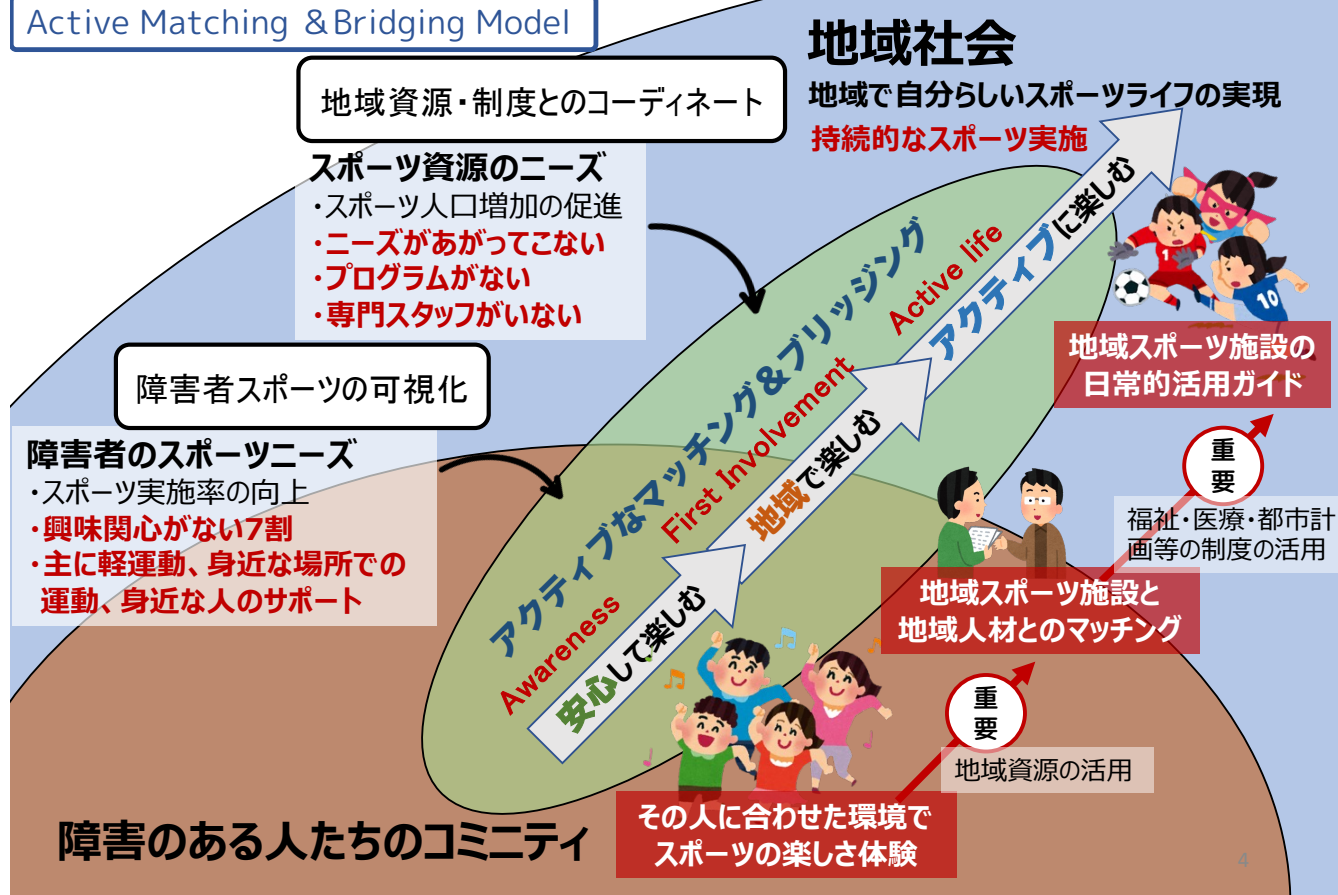
- ・ **アインげんきキッズ** 2007～ / **ひまわり** 2015～
- ・ **ユースMDCプロジェクト** (一社ULURA / 独) 2013～
- ・ **ココ・カラ基地プロジェクト** (筑波大学社会貢献プロジェクト) 2021～
- ・ **少年院体育指導・出所障害者支援** 2017～
- ・ **アインMDC_ユースMDC、個別カウンセリング** 2000～
- ・ **インクルーシブ体育事業** (スポーツ庁) 2014～
- ・ **障害者スポーツ運動マニュアル作成** (スポーツ庁) 2023～
- ・ **アダプテッド定着事業** (スポーツ庁) 2017～
- ・ **障害者スポーツ振興計画策定** (スポーツ庁) 2023～
- ・ **スポーツ推進計画策定** (墨田区) 2023～
- ・ **福祉施設でのプログラム監修** (一社ULURA / 独) 2023～
- ・ **障害者のための地域スポーツ体験会** (つくば市 / 一社ULURA) 2023～
- ・ **障害児者のための運動習慣定着事業** (東京都 / 一社ULURA) 2023～

2

現状と課題

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

Active Matching & Bridging Model



3

実際の取組

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

Active Matching & Bridging Model

地域で自分らしいスポーツライフの実現
持続的なスポーツ実施

地域社会

アクティブなマッチング&ブリッジング
Active life
First Involvement
地域で楽しむ
アクティブに楽しむ
Awareness
安心して楽しむ

地域スポーツ施設の
日常的活用ガイド

運動指導マニュアル作成
アダプテッド定着事業

重要
地域スポーツ体験事業

福祉・医療・都市計画等の制度の活用

重要
地域スポーツ施設と
地域人材とのマッチング

ユースMDC project
ココ・カラ基地 project

重要
障害児者運動習慣定着事業

地域資源の活用

その人に合わせた環境で
スポーツの楽しさ体験

アインゲンキキッズ・ひまわり
アインMDC_ユースMDC他
福祉施設でのプログラム監修

4

実際の取組

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

障害児者の運動習慣定着支援事業

参加施設
募集中

運動習慣定着支援事業のご案内

～事業所等での定期的な運動実施をお手伝いします～

こんなお悩みありませんか？

- ✓ 肥満防止や身体機能の維持のため運動をさせたい
- ✓ 運動の専門的な知識がなく安全管理が難しい
- ✓ いつも同じような運動ばかりになってしまふ
- ✓ 地域のスポーツ施設を活用したいが勝手がわからず不安
- ✓ スポーツで充実した余暇を過ごしてほしい

「障害児・者の運動習慣定着支援事業」では、継続的な運動を通じた健康づくりや日常生活の充実をサポートします。障害のある方への運動・スポーツ指導経験が豊富な指導者を事業所等に派遣し、無理なく楽しく運動できるプログラムを **無料** で行います。（年10回程度を予定）

POINT 1

POINT 2

POINT 3



事業所の環境や
参加者に合った
運動プログラムを提案！



障害のある方への
運動指導経験が豊富な
指導者を事業所に派遣！



事業所だけでなく
地域のスポーツ施設で
のびのび運動！

事業概要・申込方法等については、裏面をご覧ください

■事業の流れ

事前準備

運動プログラムの企画
利用者様の障害特性や
事業所等の広さ等に合
わせて個別の運動プログラ
ムを企画します。

STEP 1

事業所等での運動定着
障害者スポーツの指導者が
事業所等において運動
を実施します。職員様向け
に日常的な運動のための
アドバイス等も行います。

STEP 2

スポーツ施設での運動
地域のスポーツ施設に
場所を移して運動します。
スポーツ施設の使い方
のご案内も行います。

全10回のプログラムを通してステップアップ

- 対象となる事業所は、生活介護施設、就労支援施設（B型）、放課後等デイサービス、児童発達支援です
- 運動プログラムは1回あたり準備を含め2時間以内で、月1回程度実施の予定です
- プログラムの実施や移動にあたっては、職員様の見守り・サポート等をお願いします

■事業スケジュール

募集期間	令和5年5月8日（月）～令和5年5月26日（金） 必着
結果の通知	令和5年6月2日（金）まで
運動プログラムの実施	令和5年6月中旬～令和6年3月上旬

■運動プログラムのイメージ

- 日々の活動に取り入れやすい運動（ストレッチや体操、ウォーキング、ヨガ等）
- 楽しみながら達成感を得られる運動（リズム体操、バランスボール運動、サーキットトレーニング等）
- スポーツ施設の広さを活かしてのびのび楽しめる運動（ダンス、風船バレー、ボッチャ、ボール運動等）

※スペースにより事業所での実施が可能なものもございます。

- 上記以外の運動・スポーツも実施可能です（事業所の環境と参加者に合った内容をご提案します）。
- 運動プログラムは、事業所ごとに指導者と協議のうえ決定します。

詳細な事業案内・申込は右のQRコードからホームページをご覧ください

東京都 生活文化スポーツ局
スポーツ総合推進部 バラススポーツ課

本事業に関するご質問や
ご相談がありましたら
お気軽にご連絡ください
【運動習慣サポート事務局・連絡先】
株式会社アール・ピー・アイ
e-mail: adsp@rpi.co.jp TEL: 03-5212-3411

URL: <https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/sasaeru/adsp.html>

令和5年5月発行 登録番号（4）152



【サイズ】縦横45mm
※印刷・複製はご遠慮ください

5

実際の取組

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

障害児者の運動習慣定着支援事業

事前準備 運動プログラムの企画

利用者様の障害特性や事業所等の広さ等に合わせ、個別の運動プログラムを企画します。

STEP1

事業所等での運動定着

障害者スポーツの指導者が事業所等にお伺いして運動を実施します。職員様向けに日常的な運動のためのアドバイス等も行います。

STEP2

スポーツ施設での運動

地域のスポーツ施設に場所を移して運動します。スポーツ施設の使い方のご案内も行います。

全10回のプログラムを通してステップアップ

福祉施設

- ・職員向けに研修会
- ・地域施設の動機づけ

スポーツ施設

- ・事前リサーチ

地域人材

- ・行政の意向把握

福祉施設

- ・ポジティブ体験重視
- ・福祉施設職員への移行

スポーツ施設

- ・職員とコミュニケーション

地域人材

- ・次年度

6

実際の取組

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

地域スポーツ体験事業

つくば市
障害者スポーツ振興事業

地域スポーツ 第2回 体験会

地域にあるスポーツ施設を使って運動を楽しもう！

2024年1月27日(土)
13時 スタート! 受付12時30分から

場所: つくばウエルネスパーク

つくば市在住・在勤の知的・発達障害のある成人を募集します
(19歳以上、定員5名:先着順)*

Point1 つくば市スポーツ推進員と障害者スポーツ専門の筑波大学スタッフがコラボ
Point2 運動やストレッチを専門の施設で楽しめる
Point3 日頃の疲れを開放しリフレッシュ!

えふぽんて
申込は fsPonteつくば まで
fsPonte.tkb@gmail.com

詳しくは裏面をごらん下さい

申し込みのしめきり 1月17日(水) まで (定員になり次第しめきります)

■運動内容 … ストレッチ・マシン・軽運動など
■費用 おひとり500円
※介助者はおひとりのみ無料です。
※当日に集金いたします、また現金をご用意ください。

本事業はつくば市による5市単障害者のスポーツ体験講座委託事業として実施されるものである

毎日の疲れ、 ここでリフレッシュ！

以下の内容をご確認ください

- ・申込後、事前に、支援員や家族の付き添い状況や介助方法、配慮すべき点など、参加者の様子を共有させていただく場合があります。その際はご協力ください。
- ・送迎にかかる費用負担および送迎希望について相談に応じます。
- ・申し込みはfsPonteつくば (fsPonte.tkb@gmail.com) まで、
1) 参加者の氏名、2) 性別、3) 年齢、4) 障害名、5) 手帳等級、6) 配慮事項、7) 担当者、8) 連絡住所と電話番号、E-mail 8) その他: 送迎の希望などをお書きください。
- ・締め切りは 1月17日(水) までをお願いします。
※定員になり次第、しめきります

fsPonte
つくば
主催 一般社団法人ULURA
担当事業所 fsPonteつくば
HPアドレス
https://ulura.jimdofree.com

問い合わせ先

担当者 澤江 幸則
さわえ ゆきのり
fsPonte.tkb@gmail.com
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
筑波大学体育系澤江研究室
一般社団法人ULURA (うるら) 宛
Fax 029-853-6317

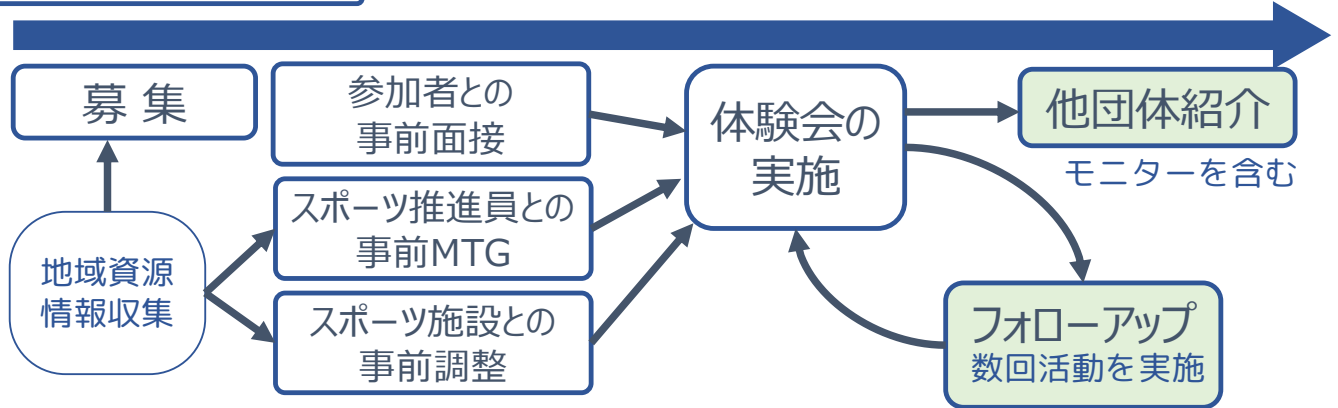


7

実際の取組

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

地域スポーツ体験事業



2023年度 課題

当事者

- ・イメージがわからない
- ・交通手段がない
- ・頼れる人材がいらない

福祉施設

- ・宣伝作業に協力、地域ニーズのリサーチ
- ・施設単位でのニーズの掘り起こし
- ・送迎・手当の制度の構築

スポーツ施設

- ・日時の設定、当日の担当者との顔合わせ
- ・当日の流れの確認

スポーツ推進員

- ・制度が複雑で活用の仕方は要検討

8

実際の取組

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

ガイド事業（案）

つくばスーパーサイエンスシティ構想

2024年02月13日
① ロボットで荷物を運ぶ実証実験を開始しました。

2024年02月10日
② パーソナルモビリティのシェアリングサービス「つくモビ」を開始します。

つくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業

令和5年度つくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業

【終了しました】交通機関をハズフリーで乗換できる実証実験を行います

ロボットで荷物を運ぶ実証実験を開始しました。

【終了しました】筑波大学構内で自動運転バスを走行します

【茨城地区】つくタクをスマホ予約できる実証実験を行います

地域で自分らしいスポーツライフの実現 持続的なスポーツ実施

NIBIOHN 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
National Institute of Biomedical Innovation, Health and Nutrition

お問い合わせ ・アクセス ・リンク ・サイトマップ ・利用規約 ・ENGLISH

文字サイズ 12pt 14pt 16pt サイト内検索 検索

ホーム 地域紹介 課題紹介 研究開発向け

SiP 戦略的イノベーション創造プログラム
包摂的コミュニティプラットフォームの構築

ホーム > 地域紹介 > 課題紹介

イベント予定

課題紹介

概要

一人ひとりの多様な幸せ（well-being）の最大化に向けて、包摂的コミュニティを実現する科学技術・社会技術が展開されるプラットフォームを構築することが本課題のミッションである。すなわち、包摂的コミュニティの形成に資する事業・サービス群が持続可能な形で提供され、それらをコミュニティの主体者である住民・市民、それを支える自治体やまちづくりに関わる企業等が、多様な個人の状況や目指す幸福、コミュニティの状況等にに応じて、選択し、採用（購入）できる状態にあることが求められる。本課題では、包摂的コミュニティを実現するために利用できるサービス群を「包摂的コミュニティプラットフォーム」と位置付け、このプラットフォームを活用し、多様な地域特性に応じた包摂的コミュニティの適用例を日本全国に多数展開する。

サブ課題

サブ課題A「社会の寛容性向上」

社会問題となっている社会的孤立が発生する可能性のある複数の地域生活圏において、最新のデジタル技術と、リアルでナラティブな互助やまちづくり手法を融合させることにより、従来の再生期間（約10年）の1/2程度で地域のソーシャル・キャピタルの充実化を実現する。これにより多様な人々が集うコミュニティにおいて生きづらさを抱えた人やその家族を含めた住民の寛容性を向上させ、一人一人の多様な幸せを実現する技術を開発・実装する。

ロボットやAI領域への積極的提案と協働による課題解決

スポーツの楽しさ体験

障害者施設での出前スポーツ活動事業

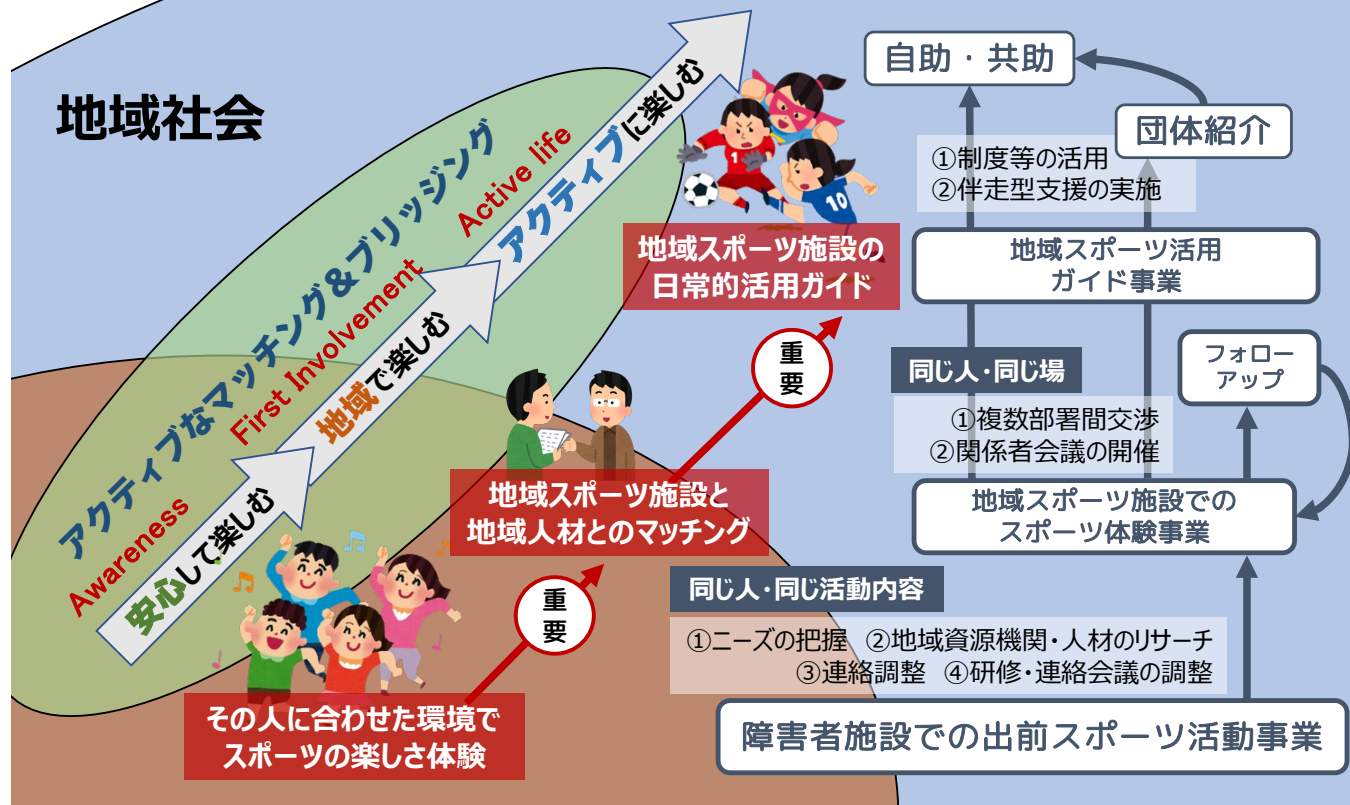
9

取組のまとめ

共生社会にむけた地域スポーツのあり方

地域スポーツにつなげるために

地域で自分らしいスポーツライフの実現
持続的なスポーツ実施



10

さいごに 今後の取組に向けて

その1

実際にコーディネーターをおいて障害者スポーツ振興を行っている（計画している）自治体や法人、事業所に対して、どのようなコーディネーター（資格・免許、業務内容、資質等）を配置すると、どのような障害者スポーツ振興が可能か、実施率、活動参加場所拡大、ソーシャル・キャピタル等の指標をもとに、どんな課題があるのかを把握すべき。

その2

地域で障害者スポーツ振興に関わるコーディネーターを育成するためにどんな研修会カリキュラムが必要なのかを仮説的に実施し、その効果検証をもとに障害者スポーツコーディネーター養成における課題を把握すべき。

その3

上記の成果をもとに、スポーツ推進員の研修や中級パラスポーツ指導員資格、その他のスポーツ関連資格のなかに取り込むことはできないかを検討すべき。

11